



いつ噴火すると云えないのに川内原発を再稼働??

桜島は一九一四年の大正大噴火で、島から半島になった。マグマを大量に放出して、地盤が沈降。その後、再びマグマが溜まり続け、沈降も九割方回復。再び大噴火しても不思議ではないらしい。

二万数千年前、始良火山が大爆発。それで出来た始良カルデラが鹿児島湾で、桜島はその外輪山だ。

日本列島では始良カルデラが出来たような巨大噴火が一万年に一回位起きていているという。その予知ができるか？

御岳山の爆発

気象庁は九月十日、十一日に御岳山の火山性地震を観測していた。が、間もなく、地震は下火になった。「すぐ爆発するとは云えない」と警報は出なかつ

た。しかし、九月二十七日に爆発。多数の死者が出た。噴火予知は難しい。

川内原発では

始良カルデラから川内原発まで約五十キロ。巨大噴火の時、被害は免れられない。

巨大噴火なら前兆を数ヶ月前に捉えられると云う。核燃料や使用済み燃料の搬出には「〇月×日以降、噴火。その何日前迄安全」と云えないと計画もできない。が、噴火が何日以降とは云えない。

「巨大噴火が間もなく起きる」となれば、周辺は避難で大騒ぎ。噴火は早まるかも知れない。原発に残った燃料を運び出せるか？これで川内原発を再稼働したらどうなる？みなさんはどう思われますか？

遊行坂

横浜市中区打越・南区中村町
二〇一四年九月



横浜は坂の町。海拔二、三mの平地と四五十mの台地を結ぶ。絵にあるように、坂の途中に遊行寺がある。踊り念仏の時宗の総本山、藤沢の遊行寺の説教所として明治五年に建てられた。寺の名前から、この坂は「遊行坂」となった。

「宮本武蔵」を書いた吉川英治は少年時、この坂の辺りに住んでいた。だから、彼の小説にこの近くの町や坂の名前がよく出てくる。

台地の上や裾をバスが走るが、狭い坂道を走るバスはない。だから、坂の途中に住むと、坂を上るか、下らないとどこにも行けない。

坂の下ではお母さんが小さい子二人を励ましていた。乳母車を押すお母さんも「健康の為にガンバロウ」と自分に言い聞かせているようだ。